こんにちは! 事務局です

❖ 理事会報告

第６回／平成29年11月25日（土）

Ⅰ 協議事項

1. 平成29年度重点事業・主要事業報告
2. 中間報告
（職能・常任委員会・地区支部）
3. 平成29年度中間監査報告
4. 平成30年度重点事業への意見について
5. 平成29年度滋賀県看護学会開催（案）について
6. 包括的母子保健のための研修会（案）について
7. 理事・委員会合同委員会開催（案）について

Ⅱ 報告事項

1. 日本看護協会地区別法人会
2. 滋賀県議会県議団要望について
3. 近畿地区職能委員長会議
4. その他会議報告

Ⅲ その他

1. 新会員情報管理体制「ナースシップ」について

選挙管理委員会からのお知らせ

選挙管理委員長 松本みどり

公益社団法人滋賀県看護協会役員・委員等の立候補者の受付について

平成30年６月16日（土）栗東芸術文化会館さきら にて開催予定の滋賀県看護協会通常総会において、滋賀県看護協会役員および推薦委員ならびに平成31年度日本看護協会通常総会に出席する代議員および予備代議員の選出を行うことに伴い、下記の要領で立候補を受付けます。

なお、役員等は本会の会員であり、本会の目的を理解し、組織強化、発展のために定められた会議に出席し、積極的に責務を遂行することが求められます。

1. 立候補の方法

立候補される方は、正会員５名以上の推薦を受けて、届け出用紙に必要事項を記入の上、看護協会事務局へ提出してください。届け出用紙は、事務局にあります。（ホームページからもダウンロードできます。「滋賀県看護協会」→「看護職の方へ」→「役員・委員等の立候補者の受付」）

2. 立候補者の受付期間

平成30年２月２日～平成30年２月15日必着

3. 立候補届の送付先

〒525-0032 草津市大路二丁目11番51号
公益社団法人 滋賀県看護協会事務局
選挙管理委員会 宛て

4. 平成30年度選挙する役員および改選数

会長１名／副会長１名（保健師）／常務理事１名／保健師職能理事１名／看護師職能Ⅱ理事１名／第１地区理事１名／第３地区理事１名／第５地区理事１名／第７地区理事１名／准看護師理事１名／監事（看護職）１名／監事（看護職以外）１名／推薦委員７名／平成31年度日本看護協会総会代議員９名・予備代議員９名

広報委員よりお知らせ

新メンバーとなり半年が経ち、和気あいあいと活動しています。

今年度の“一番星見つけた”では、さまざまな看護活動にスポットをあて、色々な形の看護を皆様に知っていただけるよう構成しています。また、「表紙の写真」「会員の声（ご意見・ご感想）」に投稿をお待ちしています。とりあげてほしい内容、ご意見ご感想をお寄せください。広報委員が取材に行きます。ふるってご応募ください。

詳しくは、ホームページ「委員会からのお知らせ」をクリック!

会員の声

▶医療の進歩とともに訪問看護師の内容も変化していることを感じました。（Y.K）

▶子どもたちが安心して医療を受けられているんだなと思いました。（K.N）

▶「一番星★みつけた!」の母の気持ちから、母親にこう思ってもらえる看護の仕事は本当にやりがいがあると思いました。（T.Y）

▶小児訪問看護は高齢者のそれと比べると周知度が低いように思うので、実際が知れてよかったです。写真入なのが分かりやすかったです。（K.N）

編集後記

皆様、明けましておめでとうございます。編集スタッフ一同、心から新年のお祝いを申し上げます。本年も充実した内容を的確に皆様に提供できるよう努力して参りますので、より一層のご愛読をよろしくお願いいたします。（石黒）

2018年度版 日本看護協会会員手帳プレゼント当選者発表!

投稿いただいた方の中から、５名の方に決定しました。
甲賀市T.Yさん、甲賀市K.Nさん、犬上郡Y.Kさん、近江八幡市K.Nさん、長浜市A.Tさん。
おめでとうございます。

広報紙「ナースレーク」

Nurse Lake

Vol.137
2018年1月

公益社団法人 滋賀県看護協会

風景写真：米原市 伊吹山にて（撮影：F.Nさん）

一番星★見つけた!

長浜赤十字病院 髙野あづささん

詳しくは4・5ページへ

CONTENTS

会長新年挨拶……2
受賞おめでとうございます……3
Voice～これからの看護師に期待すること～……3
一番星見つけた!助産師出向支援事業……4～5
滋賀県看護学会……6
研修報告／委員会報告（助産師職能）……7
医療安全通信……8
訪問看護支援センターだより……9
ナースセンターだより／はたさぼ通信……10～11
こんにちは!事務局です／選挙管理委員会……12
広報委員よりお知らせ／会員の声／編集後記……12

発　行　所●公益社団法人 滋賀県看護協会
発行責任者●会長 廣原惠子
〒525-0032 滋賀県草津市大路二丁目11番51号
TEL.077-564-6468　FAX.077-562-8998
http://shiga-kango.jp/
モバイルサイト
滋賀県看護協会　検索

滋賀県看護協会会員数（平成29年12月17日現在）

保健師/	332人	助産師/	262人	合計 8,234人
看護師/	7,417人	准看護師/	223人	

新年を迎えて

―「生きるを、ともに、つくる。」を進める年に ―

滋賀県看護協会
会長 廣原 惠子

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆さまは、新たな気持ちで2018年を迎えられ、更に幸せで充実した良い年になるよう願い事や目標を立てられた方も多いことでしょう。

私たち看護職は、24時間・365日人のいのちや暮らしに向き合い、この年末年始も患者や利用者と共に過ごされた会員の皆様も多いことに思いを馳せ、そのご苦労に感謝申し上げます。

４月からは、診療報酬・介護報酬のダブル改定、昨年度に関係団体等を交えて策定された７次滋賀県保健医療計画・介護保険事業計画のスタートです。地域包括ケアシステムへの取り組みも各地域で加速化し、まさに激動の年。実効性のある地域包括ケアシステムにしていくためには、あらゆる場所で、看護実践力を高め、看護職一人ひとりが考え行動することが求められています。

さて、今年の干支は、戌年。「戌」という字には、「刈って収穫した物を一つにまとめる」という意味があるそうです。

医療や看護界は激動の中、大切なことや対象者中心の看護の視点は見失うことなく、今までの取組みの「収穫をまとめ」実りを前進させる年にしたいと思います。

ところで、日本看護協会は、昨年11月に70周年を迎えました。その記念式典で、2025年に向けた看護の挑戦「看護の将来ビジョン」を全ての看護職等や社会全体に広く伝えていくために、タグライン・ステイトメント「生きるを、ともに、つくる。」が紹介されました。（その詳細は、下に紹介します。）

日々の看護実践現場で、一人ひとりが「一期一会」を大切に、対象者とその家族や多職種と共に、地域の中で「生きるを、ともに、つくる。」を進めていきたいと思います。

自分自身はもちろん、家族、対象者や同僚の笑顔が増え、更に幸せなウシダフルな年にしていきましょう!!

今年もどうぞよろしくお願いします。

【日本看護協会タグライン※1】

生きるを、ともに、つくる。

【ステイトメント※2】

これまで私たちは、ひとりひとりの患者と向き合い、病院看護を中心に、生きる力を引き出す技術を磨いてきました。それは、揺るぐことのない誇りです。

けれど、いま、変わらなくてはなりません。

少子・超高齢化、医療費削減、在宅医療の増加により、看護の力は病院だけではなく、あらゆる場所で必要とされています。最期までを、看続けるためにも。私たちはいま、「暮らし」というフィールドに立ち、これまでなかった看護のかたちを実現させなければなりません。

地域全体を見渡せる、看護システムは。
安心して、在宅医療を選択できるためには。
問われているのは、看護職ひとりひとりが考え、行動すること。
もっと自由に。もっと強く。

未来に向け、求めあう手と手がしっかり届き結ばれるような環境を新しく作り上げていきたい。私たちは、そう思う。

※1) タグライン：ステイトメントを要約し分かりやすく説明するもの。
※2) ステイトメント：企業・団体が社会に対して果たそうとする内容や約束する価値を簡潔な文章・言葉で表現したもの。

★詳細は、日本看護協会HPで動画等も紹介されています。

受賞おめでとうございます

平成29年 秋の叙勲

永年のご活躍に敬意を表し、心よりお祝い申し上げます。

瑞宝単光賞

元 大津赤十字志賀病院 看護部長
吉田 祥子さん

❖厚生労働大臣表彰（優良看護職員）
伊藤 あさゑさん［滋賀県助産師会］
久木 ひろ美さん［訪問看護ステーション れもん］
小谷 清美さん［高島市民病院］

❖厚生労働大臣表彰（優良助産師）
井本 千鶴子さん［山田産婦人科］

❖精神保健福祉事業功労者知事表彰
清水 康男さん［訪問看護ステーション 欅］

Voice ―― これからの看護職に期待すること

37歳で乳がんステージ3Aと診断され25年が経ちました。医療者のあたたかい言葉や励まし、治療に支えられ４年目の再発を乗り越え、有難いことに今を生きています。

がん治療が進歩し、がんは早期発見すれば治る時代。慢性病と言われるようになりました。看護職も専門看護師や認定看護師などの資格制度で専門性が高まり、医療においてますます多くの役割を担われることでしょう。医療現場では患者を中心としたチーム医療が行われ、がん患者ひとりひとりの視点に立った寄り添いの医療が行われています。

ただ、昔も今もがんと言われた時、患者の脳裏を「がん=死」がかすめ、不安や絶望から、未知のがん治療と向き合っていくことは変わらないようです。

がん治療は長きに亘ります。その中で、これからの看護職に期待することは、第一に適切で患者にやさしい看護医療です。その上で、原点を忘れないでほしいのです。声をかけやすい。相談に乗ってくださる。頼れる。医師や治療の狭間で落っこちそうになっているがん患者や家族に寄り添ってくださる。そんな存在でしょうか。看護師さんの一言が、素振りが、態度が私たちがん患者を孤独から救ってくれます。冷静にしてくれます。安心させてくれます。希望を与えてくれるのです。

４年目に再発がわかってロビーで座っていた時に、「何かあったら相談してくださいね」とメモを渡してくださった看護師さんのあたたかさを私は今も忘れることができません。どうかこれからも最後まであきらめないでがん患者の傍らで伴奏してくれる存在でいてくださいね。お願いいたします。

滋賀県がん患者団体連絡協議会
会長 菊井 津多子 様

一番星☆見つけた！

「助産師出向支援事業」を活用して

臨床で活躍する助産師さん！

左/高野あづささん
右/上野師長

公益社団法人日本看護協会では、平成23年度より「助産師の積極的な活用による安全で安心な妊娠・出産・育児環境の推進」を掲げ３か年計画に基づき事業を推進されました。

滋賀県では平成25年度より、公益社団法人日本看護協会よりモデル事業の委託を受けて事業を開始しました。

周産場所は診療所が病院を上回っている（病院：診療所＝3：7）現状があるにも関わらず、就業助産師は病院が診療所より多い状態です。また、病院では正常分娩件数が少ないため、助産師外来や院内助産に必要な経験が十分にできない状況があります。そこで就業先の偏在の是正、助産実践能力の強化を図るために、医療施設間での助産師の出向・受け入れを支援することを目的に始まりました。

今回、昨年度に出向された長浜赤十字病院 助産師高野あづささんと、部署管理者である上野師長さんにインタビューしました。

※2017年11月24日訪問

■出向事業の経緯

平成23年度	公益社団法人日本看護協会が重点事業「助産師の積極的な活用による安全で安心な妊娠・出産・育時環境の推進」の３か年計画推進	—
平成24年度	「助産師出向システムと助産実習の受け入れ可能性等に関する調査」実施	—
平成25年度	公益社団法人日本看護協会よりモデル事業として受託 「滋賀県助産師出向支援事業協議会」を設置	—
平成26年度	公益社団法人日本看護協会よりモデル事業２年目	出向事例：１例
平成27年度	滋賀県より「助産師出向支援事業」を受託 看護協会に助産師のコーディネータを配置し、出向元と出向先施設の調整や契約を進めた	出向事例：２例
平成28年度	滋賀県より「助産師出向支援事業」受託２年目 出向に関わった施設や出向者との意見交換会開催	出向事例：１例

■高野さん出向実績データ

出向前
【経験年数】助産師３年目
【分娩介助件数】46件／２年目４月～３年目９月まで17ヵ月間（うち医師管理のもと17件含む）

出向中
【期間】平成28年10月～２カ月間
【実績】分娩介助件数：27件／その他見学等：母親学級、母乳育児指導、助産師外来、フリースタイル分娩
【出向先】清水産婦人科
【出向形態】日勤・夜勤２交替制（分娩介助件数を上げるため後半はほぼ夜勤専従）

《出向を終えて /助産師出向者 高野さん》

Q学んだことは？

▶出向先では10年目以上の経験豊かな助産師が多く、妊産婦の方への指導やケアを実際見て学びが多かった。

▶他助産師の関わりをみる機会がない中、出向先の産後の母乳・育児ケア・母親への関わり方や声かけを通して、出産過程での兆候の見極め方が深まった。

▶アロマを使ったリラックスの方法やつぼ押しマッサージなど勤務している病院では取り入れていないケアが知れて視野が広がった。

▶妊産婦への関わりを重視していたが家族の方へ眼を向ける大切さがわかった。

▶診療所での分娩介助時、助産師が救命にあたるためNCPR（新生児心肺蘇生法）や異常時の対応を熟知しなければならないと実感した。

Q自部署で活かしていることは？

▶側臥位でのフリースタイル分娩に関する報告会を行ない、院内助産に活かしている。

Qつらかったこと・しんどかったことは？

▶分娩介助した児がNICUに搬送された時、「もうちょっと出来たことはあったのではないか」「他の助産師ならなんとか出来たのではないか」と思うとつらかった。

《部署管理者から /部署管理者 上野師長》

Q協力体制について

▶看護協会が軸となり出向先との調整（時期やタイミング）をしてもらえたことで、期間や場所、形態を細かに決定する事が出来てよかった。

▶出向者より一週間に一回の割合で報告書をメール送信してもらうことで、動向がわかり精神的サポートにもつながった。

Q職場の変化と影響

▶出向者の自信につながり、判断やケアの関わりが深まったことで、スタッフの良き刺激になっている。

▶助産診断力が深まった。

▶後輩への育成に役立ち後輩に道をつくってくれた。

Q今後システムに期待すること

▶今回、一件一件出産毎に振り返りや指導をしてもらうことで出向者の自信につながった。出向先の指導体制が大切である。

《今後の課題と展望》

Q助産師出向支援事業の課題として思うことは？

▶勤務している病院から初の出向者であったが、自分は分娩件数を増やしたいという思いが高すぎたと思う。今後の出向者のシステム作りに役立ててほしい。

▶出向先によっては家賃等の出費や費用の負担を考慮した環境調整をしてもらいたい。

Q高野さんナースレーク読者に伝えたいことは？

▶一つの病院でしか知らない医療・助産活動だけでなく、他施設で学ぶことは視野が広がりロールモデルとしての助産師目標につながる。是非ともこのシステムを継続してほしい。

❄ 取材を通して

助産師出向システムを活用して、意欲をもって出向された様子が伝わってきました。この経験をされたことで目標が明確になったとインタビューに答える高野さんは『一番星☆見つけた!』に、ぴったりのとても生き生きとした助産師さんでした。今後も双方にとってこのシステムが有効的に活用されることを願っています。（取材担当：永田・吉田）

学会報告

第22回
滋賀県看護学会を終えて

学会テーマ：魅える看護の発展「doing 人と未来（あす）をつむぐ」

学会委員会 委員長　間　文彦

平成29年度、第22回滋賀県看護学会を去る12月７日にピアザ淡海滋賀県立県民交流センターで開催いたしました。午前の研究報告・実践報告には多くの方にご参加いただきました。午後の基調講演・シンポジウムには専門職・一般市民の方を合わせ、午前午後を通して延べ299名の方にご参加いただきました。

今年度は新たな試みといたしまして、午前は研究報告を行い、その後実践報告を行いました。そして、実践報告後に各テーマを設定し、そのテーマに基づき交流会を行いました。テーマに基づき活発な意見交換ができたと好評でした。しかしテーマによっては、盛り上がりに欠けたブースもあったかのように思われます。今後はテーマ設定を考慮し参加者の方々が活発に意見交換できるように工夫していきたいと考えています。

午後は、一般市民も含めた公開講座を企画し、講師に滋賀県東近江市永源寺診療所所長の花戸貴司医師をお招きし「住み慣れた地域で、安心して暮らし続けるために」をご講演いただきました。講演は、永源寺診療所での事例を中心に障がいを持った人も認知症の高齢者、病と闘っている人、そして子ども達も皆がお互いに思いやり、支えあい、安心して生活できる地域づくりの大切さを示唆していただきました。講演の中で「ご近助」が大切である。この言葉のインパクトは、いまだ鮮明に残っております。私的感想をお許し下さい。

シンポジウムでは、滋賀県内の現場で働いている地域包括ケアシステムの実際の事例を通して「介護支援専門員の立場から」「訪問看護師の立場から」「介護家族の立場から」「看護小規模多機能型居宅介護事業所の立場」「在宅医療・介護連携の推進する立場」からの活動内容報告をしていただきました。介護家族の立場からのご発言、それぞれの立場からの事例を通した報告を頂き、看護職のそれぞれの役割理解が深まる内容であったと思われます。本年度の学会テーマである「人と未来（あす）つむぐ」に繋がり、看護職・医療職そして介護者も含めたケアを「つむぐ」大切さが共有することができました。この学びを未来（あす）からの実践に繋げていただきたいと思います。

今年度は、研究報告16演題、実践報告11演題がありました。協会員皆様の研究に対しての意識が高まった結果だと思います。また、30年度看護学会に向けて基調講演やシンポジウム、査読後の研修会も含め滋賀県の看護研究の発展に寄与できるように活動していきたいと考えております。多くの皆様に参加していただきありがとうございました。

千代 章浩さん

子どもの虐待防止に関わる三職能の活動

～ 三職能の活動・連携で子ども虐待防止を図る ～

桑田先生

講師
講　　義／桑田 弘美 先生（滋賀医科大学医学部看護学科 教授）
実践報告／渕元 純子 先生（ふちもと助産院）
平岡 千夏 先生（滋賀県中央子ども家庭相談センター）
馬場 恵子 先生（滋賀県立小児保健医療センター）
上原 絵里奈 先生（高島市 健康推進課）

保健師（４名）・助産師（５名）・看護師（22名）の三職能合計31名が参加し研修が開催されました。桑田先生の講義では、児童虐待の背景や法的な整備などの基本的な知識や実例を交えながら、虐待の種類や虐待が起こりやすい家庭の特徴、社会的環境や支援の在り方について研究を通して見えてきたものについて話されました。４名の先生から実践報告があり、渕元先生からは助産師の立場から周産期だけでなく幅広いライフステージに関わる活動について、平岡先生からは児童相談所の役割や虐待の連鎖を断ち切っていくための保健師活動について教えていただきました。午後から、馬場先生からは医療機関の看護師としての虐待への関わり、医療機関として虐待の有無に関わるのではなく、育児に対する支援という視点でのフォロー体制について、上原先生からは実際の地域での母子保健での切れ目のないフォロー体制について教えていただきました。グループワークでは「連携をとるために明日からの行動化に向けて」というテーマで話し合いました。活発な意見交換が行われ、医療と保健との連携がしやすいようなリストの作成やシステム化についての意見等が出されていました。

今後も地域で取り組んでいく重要な課題です。虐待を疾患として捉え、医療と保健が連携し、顔の見える関係作りを行なうことで虐待防止につなげる事が大切である事を学んだ研修でした。　（広報委員 坂口・北嶋）

委員会活動報告

助産師職能委員会

皆さんこんにちは！「女性の一生に寄り添う専門職」助産師職能委員会です。

今年度のメンバーですが、７名が昨年からの継続、１名が新規です。写真を添付いたしました。どうぞよろしくお願い致します。毎月第２木曜日は研修センターの一室で委員会を開催し、県下の様々な周産期事情を活発に意見交換しています。うるさいくらいかも……<(_ _*)>

厚労省から公開される人口動態をみますと、ついに日本は2016年の出生数が100万人を切ってしまいました。今後もさらに減少化が進みそうです。第１子の出産平均年齢は30.7歳と晩産化傾向は鈍化しているものの、６年前から30歳を超え、ダブルケアといった新たな問題も発生しています。そういった時代背景の中で助産師に期待される役割はどんどん多様化しています。自分たちの専門性をさらに発揮できるように県下の助産師の皆さんはもちろん、看護職の皆さんと連携しながら幅広く活動していきたいと思っています。

また昨年の夏には、分娩を取り扱われている施設の看護管理者の方をはじめ、アドバンス助産師の皆さんには、アンケート調査のご協力をしていただきありがとうございました。無事滋賀県看護学会で発表させていただくことができました。詳細は学会冊子等でご覧いただけると幸いです。

日本看護協会より
緊急宣言

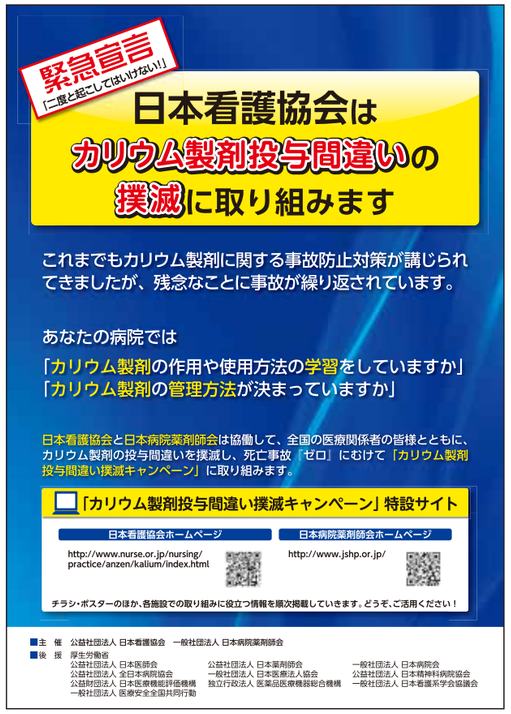
カリウム製剤投与「投与量」「投与方法」再確認

事例にあるように、カリウム製剤投与間違いの事故がゼロになりません。日本看護協会から、カリウム製剤投与間違いの撲滅キャンペーンの発表がされました。滋賀県看護協会医療安全推進委員会でもこの取り組みを推進します。各施設で、カリウム製剤の使用方法の学習会や管理方法などの取り組みが行われていますか？

事例

上級医は「患者の補液（ソルデム3A）に、KCL10mℓ追加」と口頭指示した。看護師は、KCL20mEq（プレフィルドシリンジ型製剤）に専用針を付けず、注射器に10mℓ吸い取って研修医に渡した。研修医は、カリウム製剤の投与は初めてであったため不安になり、上級医に「静注でいいですか」と確認したところ、「やっておいて」と回答があった。研修医は、静脈ラインの側管に注射器を接続し、KCL10mℓの注入を開始した。

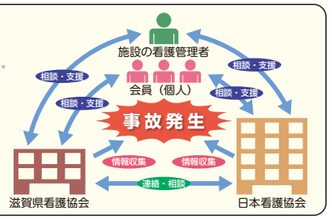
《出典：公益財団法人日本医療器評価機構医療事故防止事業部：医療事故情報収集事業第40回報告書、P131》



★日本看護協会ホームページよりダウンロードできます。ポスターを活用しましょう。

医療安全相談窓口

- ●受付時間：９時30分～16時（平日のみ）
- ●場　　所：滋賀県看護研修センター内 TEL.077-564-6468 / FAX.077-562-8998
- ●担　　当：看護協会長・常務理事・医療安全推進委員（適宜）
- ●方　　法：電話相談・来訪相談・FAX相談



訪問看護支援センターだより

訪問看護支援センターでは、滋賀県訪問看護ステーション連絡協議会の皆様の協力を得て、「訪問看護師教育はフィールド（現場）の中で実践」という理念のもと、研修体系の検討等を行い、「滋賀県版 クリニカルラダー」「ステップアップシート」を開発しました。

目的は「訪問看護師として自分の成長の過程を確認する」「職員の教育的ツールとして活用する」の２つです。見て、読んで、書いていくことにより、自分の強みや弱みに気づき、自分の課題解決に向けて学びを深めるという使い方が可能です。多くの訪問看護師にステップアップシートを活用して頂けるよう期待しているところです。

訪問看護師が質の高い看護をすることにより、地域で療養される方に、より充実した生活を送っていただける支援の要として活躍されることを願っています。

■滋賀県版クリニカルラダー（抜粋）

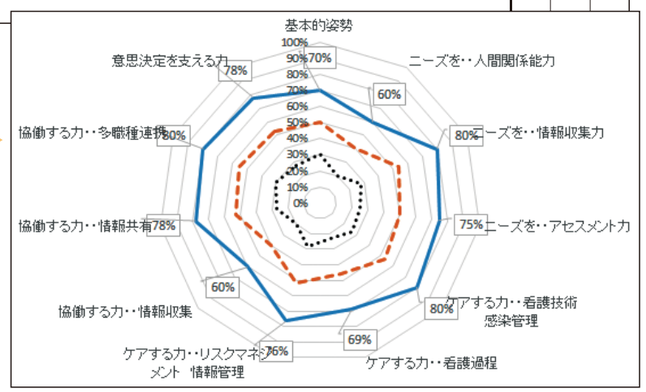
	レベル		Ⅰ	Ⅱ
定義	レベルの定義		基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する
	滋賀県の目指す訪問看護師の姿		利用者・家族等から得た情報をアセスメントして療養上の課題が抽出できる 病院等の施設内で看護実践する力を、訪問看護ステーションで立案された看護計画に基づいて助言を受けながら応用し、看護実践できる	病院等の施設内で看護実践する力を、訪問看護ステーションで立案された看護計画に基づいて自ら応用し、看護実践できる 看護計画を評価し、再アセスメントにより新たな課題を抽出できる
ニーズをとらえる力		【レベル毎の目標】	助言を得てケアの受け手や状況（場）のニーズをとらえる	ケアの受け手や状況（場）のニーズを自らとらえる
		【行動目標】	① 助言を受けながらケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる ② ケアの受け手の状況から緊急度をとらえることができる	① 自立してケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる ② 得られた情報をもとに、ケアの受け手の全体像としての課題をとらえることができる

■訪問看護師ステップアップシート レベルⅡ（抜粋）

ニーズを捉える力
【レベル毎の目標】　ケアの受け手や状況（場）のニーズを自らとらえる
【行動目標】　① 自立してケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる
② 得られた情報をもとに、ケアの受け手の全体像としての課題をとらえることができる

	カテゴリ	評価の視点　（ ５段階評価　5：できた　4：少しできた　3：やや不十分　2：不十分　1：できない ）	5段階評価 初回 ／	2回目 ／	3回目 ／
ニーズを捉える力 ケアの受け手や状況（場）のニーズを自らとらえる	人間関係能力	利用者・家族が自ら不安や相談事を表出できるような関係性を築くことができる			
	情報収集能力	自立して、利用者・家族を理解するために必要な身体側面からの情報収集ができる			
		自立して、利用者・家族を理解するために必要な心理的側面からの情報収集ができる			
		自立して、利用者・家族を理解するために必要な社会的側面（地域性、家族構成、環境等）からの情報収集ができる			
		自立して、利用者・家族を理解するために必要なスピリチュアルな側面(宗教・精神世界・信仰等)からの情報収集ができる			
		情報を得ることの必要性について利用者・家族に説明できる			
		自立して、多職種からの情報収集ができる			

訪問看護師ステップアップシート実施後、レーダーチャートが出来上がります。自分の強み・弱みが視覚的に確認できます。



ナースセンターだより

開催します

看護職就職フェア in しが

滋賀県内の求人施設から就職の面接や説明が受けられます。保健師・助産師・看護師・准看護師の資格をお持ちの方、看護学生の方、お気軽にご参加ください。

日時 **2月21日㈬ 13:30～16:00** 受付15:30まで

会場 **クサツエストピアホテル**
（草津駅西口より徒歩3分）

各コーナーあります
- ワンポイントメイク・ハンドマッサージ
- お仕事相談

参加無料
《託児無料》
★入退場自由です

開催しました

3年目看護職研修

卒後３年目の看護職が一堂に会し交流を深めました。３回開催し、約400名の参加がありました。

ナラティブについて学び、忘れられない看護体験をふりかえりグループで語り合いました。全体発表は積極的で活気のあるものとなりました。

心身のリフレッシュができ、明日からも頑張っていこうと前向きになれる研修でした。

看護職のWLBワークショップ

10月18･19日に看護職のWLBワークショップを開催しました。ワークショップ参加の５施設、のべ48名の皆様は２日間に渡りそれぞれの施設に合った働きやすい職場環境改善に向け検討でき、支援者とともに有意義な時間を過ごせたという評価でした。

また１日目の午後は、独立行政法人大阪市立総合医療センターの高丸賀子看護部長をお迎えし「働き続けられる職場環境づくり」について病院で取り組まれている事例をパワフルにお話頂きました。講義後には多くの質疑があり活発なディスカッションが繰り広げられました。

SHIGA! はたさぽ通信

就業コーディネーター｜古川純子

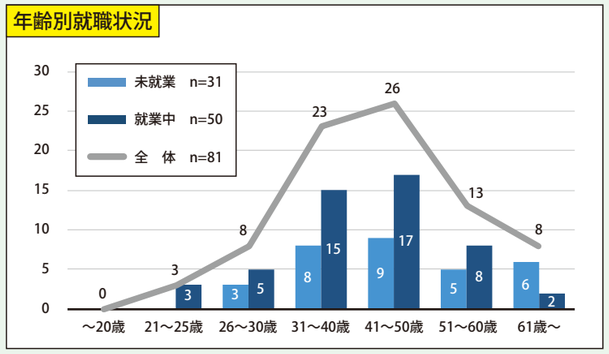
あけましておめでとうございます。

昨年、看護部長様には、県内の病院訪問で大変お世話になり、ありがとうございました。求職相談に来られた方に、それぞれの施設での多様な勤務形態の受け入れやセカンドキャリア支援、働きやすい職場環境等、お伝えしたいと思います。

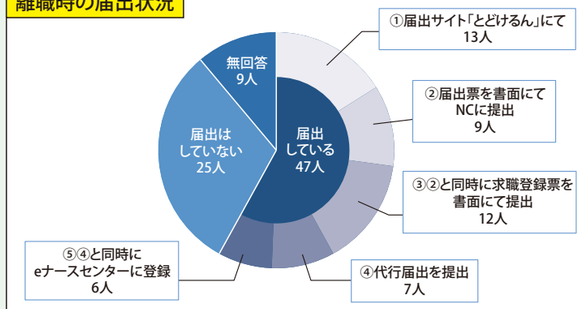
今年も、より多くの看護職のみなさまが、看護の場で活躍されますよう、復職支援に努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

今回は、平成28年８月１日から平成29年７月31日までの新規登録者を対象とした「再就職についての意向調査」結果（抜粋）をお知らせします。［新規登録者327件中81件（回収率24.8%）］

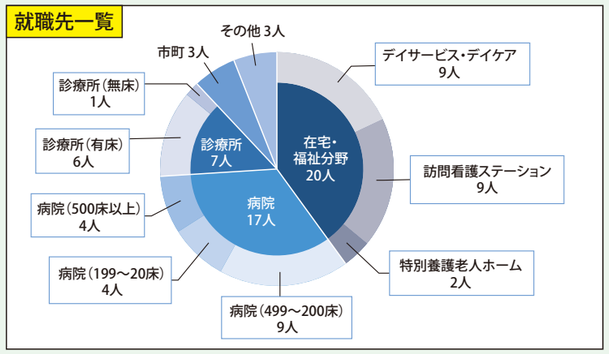
年齢別就職状況



離職時の届出状況



就職先一覧



再就職する際の希望条件ベスト4
（複数回答数）

1. 勤務時間（68）
2. 看護内容（54）
3. 通勤時間（52）
4. 給　　与（51）

再就職する際、就職先への支援ベスト3
（複数回答数）

1. 看護業務を段階的に説明してくれる（49）
2. スタッフの声かけ（44）
3. 看護知識・技術に関する研修がある（40）

調査へのご協力ありがとうございました。

研修のお知らせ
※詳細はホームページをご覧下さい

お問合せ先

滋賀県ナースセンター
●TEL：077-564-9494　●FAX：077-562-8998　●E-mail：shiga@nurse-center.net

彦根サテライト
●TEL：0749-30-1235　●FAX：0749-30-1233